



本願に生きて生きる

昨夏、70年の人生で初めて悪性リンパ腫という大病を得てより、治療の生活が1年近くになります。

今思えば、去年の梅雨の頃には既に体調を崩しかけていたように思いますが、お盆過ぎに声が出なくなって耳鼻咽喉科で診てもらおうと「すぐ総合病院に...」とのこと、その診断にただならぬものを感じながらも「方針（行き先）の定まらない」時間はことさらに長く感じられ、ときには焦りと不安を味わいました。最終的に信頼する掛かりつけのお医者様が病院を決めて下さり、呼吸不全に陥っていたことから即入院となり、病室のベッドに横になっただけなのに楽になったような気がしたときを忘れることができません。

その日からは抗がん剤など何本もの点滴につながれ、次々部屋に持ち込まれる医療器具による検査や処置が目まぐるしく続きましたが、迷いや疑いもなく、その時その時にただ「応える」お任せでした。正式な病名とどの程度であるかを知らされたときにはある程度の覚悟をしましたが、病状が改善されていくのを実感できる日々でした。声はなか

なか出てくれませんでした、逆にそれが、お経も法話も会話も思うようにできない僧侶の生き方を考える時間を作ってくれ、何度も繰り返し思い直す時間に恵まれたことを、癌で得た「ありがたい」経験だったと思っています。

* * *

大病になって「いのち」を思わない人はいないでしょう。「死」に恐怖を感じることは一度もなかった私も、縁ある人との別れを思うと解決しきれない感情におそわれ、お釈迦様の教え「生老病死」の四苦、「愛別離苦、怨憎会苦」などの八苦が説かれていることに「ほんとうになあ」と素直に頷かされたのでした。そして、「ただお任せ」と説かれてある浄土真宗の信は、教義を学び理解できたら完成ではない。それにただただ応えるしかできない自分という衆生がいるからこそだったのだと今更ながら味わっていました。生きるということは、やはり「お任せ」であり、刻々の「応」の積み重ねだったのです。

「今しばらく生きて、お浄土には一緒に往こう」とくれた、人工透析でいのちを繋いでいるカナダの親友とのメールのやりとりや、若くして癌になった甥が、過酷な説明のち手術の承諾を求められ、

「はい自分でしなさいと言われてもできないけど、先生がしてくれるのだから大丈夫です」と応えたことなどを思い返し、多くのお念仏の仲間にも恵まれている喜びもありました。

* * *

他力は一方通行ではないのです。それに応えてお任せする私がいなければなりません。それは健康な日々でも同じです。そこに求められているのは、百点満点の「答え」ではない、時にとぼとぼとおぼつかない「応え」であっても、その一瞬一瞬に応えられる柔らかな心です。その心が念仏のみ教えだったのです。

そのいのちも、「力なく終わるとき、浄土へはまいるべきなり」の親鸞聖人のお言葉通り、自分の生きる力がなくなって、大慈悲にお任せするばかりのときが必ず来ます。

阿弥陀仏のご本願は「応當發願」、衆生病むがゆえに、苦悩を抱える私たち衆生を目当てに建てられた誓いであることを今更ながらに領解させてくれた一年でした。

これからもいのちのある限りいろんな苦難はあるでしょう。その時その時に「応え」ながら、皆さまと共に「お念仏」をお味わいしていけたらと思っています。

奏庵法座

日時
6月26日(日)
午前11時より

「真宗宗歌」
正信偈
住職法話
ご文章拝読
「恩徳讃」
～*～
おとき

梅雨に入りましたが、水不足も言われています。雪国の人間にはありがたい少ない雪も原因の一つと言われ、この不足を補うには被害をもたらすほどの豪雨が必要だと聞きます。時に脅威な自然ですが、その自然なしに生命は育れません。私たちは不遜にもそのメカニズムに抗うようなことをしているのではないのでしょうか。今月は日曜に当たり、違った方のお顔も見れるのではないかと楽しみにお待ちしております。お参り下さい。



お盆のお参り

今年も夏の訪れとともに「お盆」が巡ってまいります。お盆は教えに則ってというより地方色が強く、地方によっては新暦、旧暦と異なっていますが、それに向かって故郷に帰省するという慣習となって日本人にしっかりと培われてきたことは、仏縁が楽しい記憶となるご縁となった結果なのでしょう。

浄土真宗では、霊が行ったり来たりする教えはありませんが、先人から脈々と伝えられた仏さまとのご縁を大切に、家族揃って本来のお盆の意義、仏さまのおはたらきにふれていただくご縁としてお勤めしています。特にお盆の飾りは必要ありません。清々しく仏前を整えてお勤め下さい。

龍溪寺では7月、8月、お参りいたします。初盆などで日時指定をご希望の方は早めにご依頼下さい。また庵へのお参りは、お盆期間中はいつでもできるようになっております。

どうぞお参り下さい。

ご懇志ありがとうございます。龍溪寺への送金は

- ゆうちよ銀行
- 19060-2
-3338701

*必ず「リュウケイジ」を確認の上ご送金下さい。

またまた日本の首都の知事が「政治と金」で辞職した。それも世論が口を揃えて評する「セコイ」金の使い方だ。■公務にファーストクラスや豪華スイートルームを利用したと責められていた頃には、大東京なのだからそれくらいいいじゃないかという思いもしていたが、弁明する彼が醸し出す何とも言えない賤しさに、多くの日本人に「過ちを改めざる、是を過ちと謂う」「過ちを観て仁を知る」のごとく、彼の人格のなさを知らしめてしまった。■ベストセラーになっていた彼の著書が報道され、その「天に唾す」ぶりが可笑しくも哀れだ。そこにある主張が自分の信念ではなく、人をやっつけようとした攻撃の言論であったということは、自分にも大いに同じ部分があるからだという心理分析が頷ける。自分の頭の良さを絶対としてきた彼も、それがやりたい自分を抑えることができなかつた本性は、頭の良し悪しに関係のない人間性なのだ。■「考えが甘かった」と過ちを認めて謝れば、めめしい奴の小さな不祥事で終わったかもしれないのに、潔さのなさと言いつつ醜く、あの号泣議員と同レベルだが、周りはバカで自分は賢いという傲慢さで買った響響度はダントツに高い。みみっちい策士がみみっちい策に溺れる姿は見苦しい。■そしてうやむやのまま話題は次期都知事に移っている。同じ間違いを繰り返せば、それは間違いではなく、それが日本人の本性だと思われかねないのに、相も変わらずの知名度重視候補に同じ臭さがある、せめて見てくれだけでも気分が悪くならない顔はないのか…。「末は博士か大臣か」と言われたのは過去のこと、昨今の政治家を見ていると、ちゃんとした人は政治家にはなりたくないと思ってしまうのだろう。職分を貶めるのは、他でもないその仕事に就いている当事者の資質、坊主もしかり……か。 Norimaru

